

国鉄「分割・民営化」阻止！三里塚二期着工粉碎！

「スト破り」指導の裏に 国労傑見解は許せない

10万首切り阻止の生産点実力 スト決起は絶対正義

動労千葉は、十二月十六日付「速報国労千葉」の「『動労千葉』のストライキ及び列車妨害事件についての国鉄労働組合の態度」なる国労千葉地本の見解について、ストライキを闘いぬいた者として重大な疑義と怒りを感じざるをえません。
もし国労千葉地本がこのような態度をとり続けるならば、われわれは、あえて全国労働組合員に真実を訴え、討論を呼びかけざるをえないと考えるものであります。

ストに決起した労働者・労働組合に
いかなる態度をとるのか

見解の骨子は、①今日の政治動向や情勢からして「動労千葉」のストに共闘する状況にないと判断した。②しかし、ストを妨害する意志もないことを明らかにし、当局に業務命令・安全問題について申し入れてきた。③「動労千葉」のストは、国労として評価できる戦術ではない。④列車妨害は許せない。⑤従って「動労千葉」が今の態度をとり続けるかぎり、共闘問題は「白紙」とする。というものです。

国労が動労千葉のストをどう評価するかそれは自由です。

しかし、われわれが第一に指摘せざるをえないのは、ストライキに決起した労働者・労働組合に対し、労働組合としていかなる態度をとったのかということ。このことが問われたからこそ国労も当初「スト破りはしない」と言っていたのではないのでしょうか。

「スト破り」の事実こそが問われている

- 100 予備の国労電協議長が東京二往復運転、
- 3・6 破棄中に、勤務時間を大きくオーバーし、しかも通告券だけで乗務をくりかえす。● 国労指導員が千葉でストに入った動労千葉乗務員の代替乗務をする等々の現実、● 「スト破りはできない」という組合員の苦悩の声を「業命を拒否して処分されても組合は責任をもたない」として乗務を強要・指導した厳然たる事実を不問に付し、「ストを妨害する意志もない」ということを明らかにした」とキレイ事を述べ、回避する態度にわれわれは、大きな疑念と怒りを禁ぜざるをえません。

いつから闘わないことが共闘の原則となつたのか

第二に指摘せざるをえないのは、「動労千葉が今の態度をとり続ける限り共闘は白紙」なる言い方です。「今の態度」とは何か。われわれは「分割・民営化」―十万人首切り反対、運転保安確立をかかげストに決起した。この態度が問題だから共闘できないのでしょうか。

われわれは、あと一年先どころか、今日「三人に一人」の選別が現場で公然と行われ、職場に怒りと苦悩が渦まいていること。この苦悩の中で、三四人もの労働者が死に追いやられている現実を直視したからこそ闘いに決起しました。

この闘いを通し、「分割・民営化」の狙いを暴露し、大論議をまき起こしました。組織の団結も強化され、「五千万人署名」もほぼ100%達成しました。この認識と闘いがあやまつていると言うのなら、現に職場で日々攻撃にさらされ、苦闘する組合員の怒りや不安・苦悩をどう具体的に組織し、団結を守り、反撃するのかにして明らかにすべきです。

全職場で真実を明らかにし
討論をまき起こそう

国労が今、闘うか闘わないかそれは国労自身が決めることです。だからこそわれわれは、国労に対しストライキで「共闘」しようとは申し入れなかったのです。ただ「スト破りはしないほしい」と申し入れただけなのです。
こうした事実を真正面から受けとめず、「スト破り」を居直り、自ら闘わなかったことを、闘つた者を誹謗することで正当化するがときやり方は、決して労働組合のとるべき道ではないと考えます。

こうしたことが続くなら、われわれは、全職場で問題を提起し、討論を起し、真実を明らかにする決意です。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！